

# 令和元年度 事業報告

## 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組み、サイエンスとグローバルを軸に「探求力・創造力・思考力」を身につけさせ、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進しました。



本校の最重要課題は、グローバル化している社会に対応した教育を展開することです。学園の建学の理念や高校のビジョンを遵守し、以下の項目に重点を置いた学校改革に取り組みました。

### ○人材育成と教育力の向上

グローバル社会に対応できる人材の育成のために、これまでの教育内容や教育手法を改革を進めました。自ら考え自ら行動する学修態度の定着に加えて、サイエンス分野での取り組みから探究心を発展させる教育を進めました。これらの教育を実現するために、教師力の向上に継続的に取り組みました。

### ○国際協力と社会貢献

学園が協定を締結している交流協定校との交流を強化し、英語教育を含めグローバル社会で「生き抜く力」の養成を進めました。また、学校としての使命である地域社会との協働においては、地域の様々な施設を教育活動に活用して、地域社会の発展に貢献しました。

### ○高大連携と社会連携の強化

岡山理科大学を始めとした関連大学、並びに企業体や研究施設などと連携し、キャリア形成を意識した学修を展開しました。また、専門的知識や専門的手法を身に付けさせ、グローバルな視野を併せ持つ人材の養成と資質の向上を進めました。

### ○組織力の強化

組織の見直しを行うとともに、情報共有の強化や教科会議等を密に実施しました。また、情報を共有することで、学校組織運営の改善を行い、さらに、教職員の意識改革による組織力の強化に取り組みました。

### ○経営基盤の安定

生徒の確保に向けて学校組織が共同して、広報活動の強化に取り組みました。また、社会的な説明責任を果たし、生徒及び保護者が満足できる学校、地域から認められる学校として発展するように、教職員が一丸となって様々な活動に取り組みました。

岡山理科大学附属高等学校 校長 田原 誠

# I. 教育について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 人材育成と教育力に関する中期目標</p> <p>(1) 生徒が持つ、資質や能力を十分に伸ばすとともに、サイエンスとグローバル教育を推進する。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりのニーズを把握し、きめ細かな実践型指導を推進する。</p> <p>(3) リーダーシップやチーム力を発揮できる人材を育成する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>教育の充実</b></p> <p>■サイエンスおよびグローバル教育の推進</p> <p>サイエンスとグローバルを軸にしたコース編成での教育活動を実施します。これからの人材に必要な論理的思考力、情報発信能力を身に付けさせる教育を展開します。</p> <p>令和元年度からはコースの特徴をより明確にし、生徒が高い志を持ち勉学に励むことができる環境を整えるため、新たなクラス、コースを設け改編します。【1-1】</p> <p>■新コースの実施</p> <p>機械科の募集停止と普通科の再編に伴い、新たな指導体制を確立しましたが、普通科においては更にグローバルサイエンスコースを特別進学（医・獣・薬）クラスと進学（文・理）クラスに分け、アニメデザイン、生命動物、ものづくりを実習として学べる総合進学コースを新たに設けます。これにより、コースの特徴を明確にした教育課程での教育の実践に努めます。【1-1】</p> <p>■100分授業・アクティブ・ラーニングの取り組み</p> <p>生徒が主体的・協働的に授業に取り組み、深い学びを行い、問題発見・解決の能力を身に付けられるように、アクティブ・ラーニングの技法を用いて授業展開します。生徒が能動的な学びを効率よく行えるように、1コマ当たりの授業時間を100分にしています。</p> <p>【1-2】</p> <p>■ICT活用教育の推進</p> <p>情報活用能力の育成、授業の予習・復習、学習内容の定着のため、新入生、2年生と一部コースの3年生に「Classi」（ベネッセ）を、新入生と2年生はiPadを活用して、ICT教育を推</p>	<p style="text-align: center;"><b>教育の充実</b></p> <p>■サイエンスおよびグローバル教育の推進</p> <p>サイエンスとグローバルを軸にしたコース編成での教育活動を実施します。これからの人材に必要な論理的思考力、情報発信能力を身に付けさせる教育を展開します。</p> <p>令和元年度からはコースの特徴をより明確にし、生徒が高い志を持ち勉学に励むことができる環境を整えるため、新たなクラスとしてグローバルサイエンスコースに特別進学クラスと進学クラスをもうけました、また、総合進学コースを新設しました。【予定通り実施】【1-1】</p> <p>■新コースの実施</p> <p>機械科の募集停止と普通科の再編に伴い、新たな指導体制を確立しましたが、普通科においては更にグローバルサイエンスコースを特別進学（医・獣・薬）クラスと進学（文・理）クラスに分け、アニメデザイン、生命動物、ものづくりを実習として学べる総合進学コースを新たに設けました。これにより、コースの特徴を明確にした教育課程での教育の実践を進めました。2年次からの実習を明確にした総合進学コースの設置が今年度の入学者増の要因です。【予定通り実施】【1-1】</p> <p>■100分授業・アクティブ・ラーニングの取り組み</p> <p>生徒が主体的・協働的に授業に取り組み、深い学びを行い、問題発見・解決の能力を身に付けられるように、グループ活動やプレゼンテーションを授業に多く取り入れました。特に、学習した内容をまとめる作業として、プレゼンテーションを有効に活用する授業が増えました。このような活動を行いやすくするため、平成30年度から、1コマ当たりの授業時間を100分にしていますが、生徒、授業者に100分授業が定着し始めました。【予定通り実施】【1-2】</p> <p>■ICT活用教育の推進</p> <p>情報活用能力の育成、授業の予習・復習、学習内容の定着のため、中高一貫コースを除く新入生と2年生、教育学科の3年生に「Classi」（ベネッセ）を、中高一貫コースを除く新入生</p>

	<p>進します。また、年次進行により、情報機器の増強およびネットワーク環境の拡充を図ります。【1-3】</p>	<p>と2年生は、iPadを活用して、ICT教育を推進しました。学校からの連絡事項の配信、アンケートの実施、課題の配信に活用しました。また、岡山県の補助を活用し、年次進行により、情報機器の増強およびWifiなどネットワーク環境の拡充を図りました。【予定通り実施】【1-3】</p>
	<p><b>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</b>  平成31年3月22日、正式に国際バカロレアディプロマプログラム認定校となりました。岡山県下では初の認定となり、世界約5,000校のIBワールドスクールの一員に加わることができました。</p> <p>このことにより令和2年度から普通科に定員20名の国際バカロレアコースを設置し、国際バカロレアの優れたプログラムを行い、この岡山の地で加計学園が創立以来、教育理念としてきた世界平和、国際交流、グローバル人材の育成につなげていきたいと考えています。</p> <p>引き続き、プログラム開始に向け、下記の事業を推進していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省学習指導要領とIBDP科目の対応を整理し、適切な運用・評価などを考慮したカリキュラムの研究</li> <li>・教員の養成・確保 (IB科目担当者全員のワークショップ受講)</li> <li>・IBスタッフ会議、教育的リーダーシップチーム会議の定期開催</li> <li>・教員研修の実施 (研修会、教科内研修会、有志による研修会、勉強会)</li> <li>・IBに関する広報啓発活動等の推進 (生徒、保護者、教員向け説明会、講演会、「IB推進室だより」発行)</li> <li>・「IBカフェ」(在校生対象)の実施</li> </ul> 【1-4】	<p><b>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</b>  平成31年3月22日、正式に国際バカロレアディプロマプログラム認定校となりました。岡山県下では初の認定となり、世界約5,000校のIBワールドスクールの一員に加わることができました。</p> <p>このことにより令和2年度から普通科に定員20名の国際バカロレアコースを設置し、国際バカロレアの優れたプログラムを行い、この岡山の地で加計学園が創立以来、教育理念としてきた世界平和、国際交流、グローバル人材の育成につなげていきたいと考えています。</p> <p>プログラム開始に向け、下記の事業を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一条校として、文部科学省学習指導要領とIBDP科目の対応を整理し、適切な運用・評価などを考慮した週37時間授業のカリキュラムを編成しました。【予定通り実施】</li> <li>・IB科目を担当する教員を3名確保しました。また、IB科目担当者全員にワークショップを受講させ、新入生の受け入れ体制を強化しました。【新教員3名確保】</li> <li>・IBスタッフ会議、教育的リーダーシップチーム会議を毎月開催しました。【最低月1回開催】</li> <li>・全教員に対し、「知の理論」を全教科の指導に応用するための研修を実施しました。また、岡山理科大学と共催する研修会に必ず教員を派遣しました。【全教職員対象に実施】</li> <li>・IBに関する広報啓発活動等の推進のため、「IB推進室だより」を発行しました。【3回実施】</li> <li>・IBへの理解を深めるため高校生のみならず、中学生も対象として「IBカフェ」を実施しました。【4回実施】【1-4】</li> </ul>
	<p><b>■基礎学力向上への取組み</b>  学校行事を精選し、より多くの授業時間を確保します。また、補習や諸検定試験、模試等を利用した旧来の指導に加え、「Classi」(ベネ</p>	<p><b>■基礎学力向上への取組み</b>  年間35週の授業を確保するため、定期考査の廃止に加え、自主活動期間を短縮しました。また、「Classi」(ベネッセ)を活用し、生徒の</p>

	<p>ッセ)を活用し、生徒の理解に応じた個別学習を指示することにより、基礎学力の向上に取り組めます。【3-1】</p> <p><b>■シラバスの作成・観点別評価の導入</b>  生徒や保護者に授業の目的、進め方や観点別評価を明確にするためのシラバスを作成し、年間計画、ポイントを体系的に示し、生徒の学習計画や学習意欲の向上に繋がります。【3-2】</p> <p><b>■教育相談体制の充実</b>  教育相談室に専門職員を配置し、保健室・担任・生徒指導課・管理職との連携を強化し、生徒の学校生活を支援します。特に配慮が必要な生徒については、生徒の出身中学校とも連携し、授業担当者を含めたケース会を開催し、情報を共有し、適切な指導に努めます。【5-1】</p>	<p>理解に応じた教材を配信し、個別学習に力を入れることにより、基礎学力の向上に取り組ましました。【Classiの効果的な利用方法を検討中】【3-1】</p> <p><b>■シラバスの作成・観点別評価の導入</b>  生徒や保護者に授業の目的、進め方や観点別評価を明確にするためのシラバスを作成し、生徒に提示しました。指導者が求める学習活動や学習到達目標を把握することで、定期考査に頼らない評価への理解が進みました。【実施済】【3-2】</p> <p><b>■教育相談体制の充実</b>  教育相談室に専門職員を2名配置し、保健室・担任・生徒指導課・管理職との連携を強化し、生徒の学校生活を支援しました。カウンセラーが勤務する週2日は予約が埋まっている状況にあり、来年度以降、教育相談の受け入れ体制を更に強化する必要があります。【予定通り実施】【5-1】</p>
	<p style="text-align: center;"><b>生徒指導</b></p> <p><b>■あいさつ・マナー教育</b>  あいさつ運動を実施し、あいさつ・マナーの向上を目指すとともに、生徒の服装、頭髪の乱れなどへの指導を行います。また、近隣の通学路に教員を配置し、通学指導も行います。さらに、PTAと協力した保導活動(市内保導・列車保導)を実施します。【1-1】</p> <p><b>■情報モラル指導</b>  ICTを活用した学習を展開するに当たり、情報化社会におけるソーシャルメディアの正しい活用方法や、リスクについての指導を行います。外部の専門講師を招いての講義も取り入れます。【1-2】</p>	<p style="text-align: center;"><b>生徒指導</b></p> <p><b>■あいさつ・マナー教育</b>  あいさつ運動を実施し、あいさつ・マナーの向上を目指すとともに、生徒の服装、頭髪の乱れなどへの指導を行いました。週1回は全教員が登校する生徒にあいさつや声かけをする早朝指導を実施しました。また、毎朝、近隣の通学路に教員を配置し、通学指導を行いました。さらに、例年通り、PTAと協力した保導活動(市内保導・列車保導)を実施しました。【前期25回実施、後期20回実施】【1-1】</p> <p><b>■情報モラル指導</b>  ホームルームでの指導に加え、ICTを活用した学習を展開するに当たり、情報化社会におけるソーシャルメディアの正しい活用方法や、リスクについての指導を行う「インターネットモラル教室」を岡山西警察署の協力のもと、全校生徒対象に行いました。【10月21日実施】【1-2】</p>

## II. 学生支援について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 正課外活動支援に関する中期目標</p> <p>(1) 正課外活動に対する支援。</p> <p>2. 多様化する生徒への支援に関する中期目標</p> <p>(1) 多様化する生徒支援。</p>	<p style="text-align: center;">進学・就職指導進学・就職指導</p> <p><b>■進学指導プログラムの充実</b></p> <p>希望する大学への合格が叶うよう、学力向上を目指し、夏期特別講座、冬期特別講座、センター試験対策講座等を計画・実施します。また、生徒の学力の伸展に関する情報を教員間で共有する機会を増やします。</p> <p>【1-1】</p> <p><b>■関連校への進学支援</b></p> <p>関連大学を紹介する機会を増やし、オープンキャンパスへの参加を促し、関連大学への進学意欲を更に向上させます。また、関連大学の学部学科の紹介を職員会議で実施し、教員の理解を深め、生徒指導に役立てる取り組みをします。【1-2】</p> <p><b>■進学先の開拓</b></p> <p>関東・関西の大学訪問を行い、本校の教育内容を周知するとともに、指定校推薦枠の獲得を目指します。【1-3】</p> <p><b>■就職試験対策の充実</b></p> <p>生徒に合わせた就職指導を行い、就職筆記試験や面接等の対策指導を行います。【2-1】</p> <p><b>■就職先の開拓</b></p> <p>企業訪問を行い、これまでの求人企業からの求人獲得に加え、新たな企業への求人獲得に努めます。【2-2】</p> <p><b>■資格取得のための支援充実</b></p> <p>進学・就職時に強みとなる資格取得に向けて、各教科・コースで行っている試験への対策として補習等の支援の充実を図ります。</p> <p>【2-3】</p> <p style="text-align: center;">通信制課程独自の取組み</p> <p>小学校、中学校就学時において、何らかの原因から十分な教育の機会と成果を得ることができていない生徒に対して、安心して学習できる環境を作るとともに、自律・協調・継</p>	<p style="text-align: center;">進学・就職指導進学・就職指導</p> <p><b>■進学指導プログラムの充実</b></p> <p>学力向上を目指し、夏期特別講座、冬期特別講座、希望者補習等を計画・実施しました。また、生徒の学力の伸展に関する情報をコース毎に教員間で共有する機会を増やしました。【夏期特別講座9日間、冬期特別講座6日間実施】</p> <p>【1-1】</p> <p><b>■関連校への進学支援</b></p> <p>関連大学を紹介する機会を増やし、オープンキャンパスへの参加を促しました。また、岡山理科大学の教授陣による進路相談会を実施し、適切な進路と何かを考える場を生徒に与えました。【3年生対象進路相談会7月に実施】</p> <p>【1-2】</p> <p><b>■進学先の開拓■進学先の開拓</b></p> <p>進路指導課の教員が中心となり、関東・関西の大学訪問を行い、本校の教育内容を周知するとともに、指定校推薦枠の獲得に取り組みました。【予定通り実施】【1-3】</p> <p><b>■就職試験対策の充実</b></p> <p>生徒に合わせた就職指導を行い、コースの教員が中心となり、就職筆記試験や面接等の対策指導を行いました。【予定通り実施】【2-1】</p> <p><b>■就職先の開拓</b></p> <p>機械科の教員が中止となり、企業訪問を行い、これまでの求人企業からの求人獲得に加え、新たな企業への求人獲得に努めました。【予定通り実施】【2-2】</p> <p><b>■資格取得のための支援充実</b></p> <p>英語検定やワープロ検定など、進学・就職時に強みとなる資格取得に向けて、各教科・コースで、放課後を利用した補習を行いました。</p> <p>【予定通り実施】【2-3】</p> <p style="text-align: center;">通信制課程独自の取組み</p> <p>全ての在校生に対して、安心して学習できる環境を作るとともに、自律・協調・継続という社会性と教養を高める指導の充実を図りました。【1-1】</p>

<p>続という社会性と教養を高める指導の充実を図ります。【1-1】</p> <p><b>■進路指導の充実</b></p> <p>卒業後の進路確定率を向上させるために特別進学講座を開講し、生徒の学力向上を図ります。また、幅広く情報を収集し、就職先の開拓に努めます。【1-2】</p>	<p><b>■進路指導の充実</b></p> <p>卒業後の進路確定率を向上させるために、進路決定後、進路先と協働して、特別進学講座を開講し、生徒の学力向上を図りました。しかし、多種多様な課題が与えられるため、個別指導が中心となってきています。【1-2】</p>
--	---

### Ⅲ. 国際化について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 国際理解と国際貢献に関する中期目標</p> <p>(1) 国際化を日常的なものにするとともに、多角的な国際交流事業の更なる充実を図る。</p> <p>(2) 英語運用能力(聞く・話す・読む・書く)の向上を図るために、英語の「基礎学力」の定着及び「応用学力」の伸長に対応できる指導法を工夫する。</p>	<p style="text-align: center;">国際交流</p> <p><b>■交流協定校との交流</b></p> <p>修学旅行、海外研修等で海外の交流協定校への訪問や、本校への訪問受入れを行うことで、諸外国の人々と交流する機会を積極的に設けます。【1-1】</p> <p><b>■英語教育の強化</b></p> <p>生徒の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランスよく伸ばすため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携し、授業においてケンブリッジ英検の指導法を活用します。また、ケンブリッジ英検だけでなく、実用技能英語検定、TOEFLの受験にも積極的に取り組み、取得目指す級やスコアを明確にし、生徒の英語学習へのモチベーション向上を図ります。【4-1】</p>	<p style="text-align: center;">国際交流</p> <p><b>■交流協定校との交流</b></p> <p>令和元年12月までは、タイや韓国からの訪問団の受け入れは実施できたが、令和2年1月以降は新型コロナウイルス感染症拡大のため研修団の受け入れや本校のオーストラリア研修を見合わせた。【1-1】</p> <p><b>■英語教育の強化</b></p> <p>生徒の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランスよく伸ばすため、授業においてケンブリッジ英検の指導法を活用し、各種英語検定に取り組むよう指導を強化した。また、オンライン英会話やeラーニングを学習に取り入れ、英語学習へのモチベーション向上を図りました。【全生徒へ英語検定の受検を指導、TOEFL PrimaryをGSコースで実施】【4-1】</p>

### Ⅳ. 地域社会連携・貢献について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 高大連携・社会連携に関する中期目標</p> <p>(1) 学習において、岡山理科大学との高大連携の強化を図るとともに、生徒の学力の伸長を目指す。</p>	<p><b>■関連校との高大連携による質の高い教育の提供</b></p> <p>岡山理科大学をはじめとした、関連大学との高大連携教育に継続して取り組みます。連携先での聴講、実習を体験することで、多面的でより高度な理解を深めます。特に、岡山理科大学とは授業に加え、高大接続委員会を通し、大学入試においても連携し、探究心旺盛な生徒の岡山理科大学進学へのロードマップ完成を図ります。【2-1】</p>	<p><b>■関連校との高大連携による質の高い教育の提供</b></p> <p>サイエンスワーク、大学聴講、出張講義など岡山理科大学をはじめとした、関連大学との高大連携教育に継続して取り組みました。連携先での聴講、実習を体験することで、多面的でより高度な理解を深めました。特に、岡山理科大学とは授業に加え、高大接続委員会を通し、大学入試においても連携し、探究心旺盛な生徒の岡山理科大学進学へのロードマップ完成を図りました。授業、講座に加え、進路相談会の開催で、大学との連携を深めています。【後期からゼミ活動実施、7月進路相談会実施】【2-1】</p>

<p>(2) 社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化する。</p>	<p>■外部団体、企業等と連携した教育の提供 体験的な教育として、学園と提携する施設等（池田動物園・岡山乗馬倶楽部他）での実習により、興味・関心を深めます。【2-2】</p>	<p>■外部団体、企業等と連携した教育の提供 旭川荘、池田動物園、岡山乗馬倶楽部、日本盲導犬協会の協力を得て、実習を行いました。【主に自主活動期間に提携施設での実習実施】【2-2】</p>
--	---	--

## V. 組織・運営について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 組織力の向上に関する中期目標 (1) 学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指す。 (2) 学校運営が円滑になるように、チームリーダーの養成や研修を実施し、それが全体へ波及するような仕組みを考える。</p>	<p style="text-align: center;">組織力の強化</p> <p>■学校運営会議の強化 校長、教頭、事務部長、並びに各部署の責任者で構成する組織で、学校全体の運営方針、業務の企画立案、連絡調整の一元化を図ります。 また、審議概要を一斉メールで報告することで、教職員間の情報共有を強化します。【1-1】</p> <p>■教科会議の強化・連携 各教科において、教科主任を中心に教科会議を開催し、授業改善、新コース・クラスへの取組み、オープンスクールの企画等を検討します。また、各教科が集まり合同会議を実施し、教科横断的な情報共有を行い、効率的な生徒の学力向上と円滑な学校行事の運営を図ります。【2-1】</p> <p>■各種委員会・戦術会議の充実 校務機構における各課委員会の業務内容を見直し、より機能的な委員会組織を目指します。また、即時的な対応や柔軟な対応が求められる案件が生じた場合は、広報や進路指導など各部署の責任者が中心となる戦術会議を開催します。【2-2】</p> <p>■職員会議の強化 教職員が一致協力して教育活動を展開するため、校長の方針や教育課題への方策について、情報共有と意思疎通を強化します。【3-1】</p>	<p style="text-align: center;">組織力の強化</p> <p>■学校運営会議の強化 校長、教頭、事務部長、並びに各部署の責任者で構成する組織で、運営会議を毎週開催し、学校の運営方針、業務の企画立案、連絡調整の一元化を図りました。 また、審議概要を一斉メールで報告し、教職員間の情報共有を行いました。【予定通り実施】【1-1】</p> <p>■教科会議の強化・連携■ 各教科において、教科主任を中心に教科会議を開催しました。また、コース会議ではコース・クラスへの取組み、オープンスクールの企画等を検討しました。【教科会議は予定通り実施】【2-1】</p> <p>■各種委員会・戦術会議の充実 広報や進路指導など各部署の責任者が中心となる戦術会議は学校運営会議を拡大した体制で案件が生じ次第、迅速に開催し案件に対応しました。【2-2】</p> <p>■職員会議の強化 毎月、教職員が一致協力して教育活動を展開するため、校長の方針や教育課題への方策について、情報共有と意思疎通を強化しました。【年15回予定通り実施】【3-1】</p>

## VI. 内部質保証について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 内部質保証に関する中期目標 (1) 内部質保証システム体制の確立と第三者評価の導入。</p>	<p style="text-align: center;">内部質保証</p> <p>■教員の資質向上への取組み ・先進的な教育や取組みをしている学校等を視察・体験し、職員会議で報告し、本校への導入を検討することで、新たな教育の展開に努め</p>	<p style="text-align: center;">内部質保証</p> <p>■教員の資質向上への取組み ・出張で見学した先進的な学校等の情報を、職員会議で報告し、本校への導入を検討しました。特に、IB関係の報告が多い一年でした。</p>

	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講演会、セミナー、ワークショップを実施し、教員の資質向上を図ります。</li> <li>・管理職による授業評価・実務評価と教員自身による目標設定・実績評価を実施し、自己分析することで教育者としての適正を把握するとともに、教育者の能力向上を図ります。【1-1】</li> </ul> <p>■公開授業の実施と検証</p> <p>学内・学外の教職員および教育関係者等に授業を公開し、指導助言を受けながら、検証を進め授業内容の改善に取り組みます。【1-2】</p> <p>■生徒等へのアンケートの実施</p> <p>生徒、保護者に学校評価アンケート、授業アンケート等を実施します。結果を学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めます。【1-3】</p>	<p style="text-align: right;">【予定通り実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師によるワークショップを実施し、教員の資質向上を図りました。【12月哲学カフェを実施】</li> <li>・管理職による授業評価を年2回、実務評価を行う面談を年2回行いました。また、教員自身が業務内容の分析を行うことで、能力向上が図れました。【予定通り実施】【1-1】</li> </ul> <p>■公開授業の実施と検証</p> <p>学内・学外の教職員および教育関係者等に授業を公開する予定でしたが、学内、教科内での公開を基本に実施しました。今後は、第三的な立場からの指導助言を求める予定です。【教科内の研修として実施】【1-2】</p> <p>■生徒等へのアンケートの実施</p> <p>生徒、保護者に学校評価アンケートを1回、授業アンケートを2回実施し、結果を学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供について検討しました。【7月・12月授業アンケート、1月学校評価を実施】【1-3】</p>
--	---	--

## VII. 運営・財政基盤について

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>1. 経営基盤の安定化に関する中期目標</p> <p>(1) 生徒を安定的に確保するために志願者の増加を図る。</p> <p>(2) 補助金など学外資金の獲得を強く推進する。</p>	<p style="text-align: center;">生徒募集</p> <p>■オープンスクール・入試セミナーの充実</p> <p>オープンスクールでは、本校の概要、コース・クラスの特徴、部活動等の活動状況、校内設備を中学生・保護者に知らせ、学校として提供できるサービスの周知と理解を図ります。特に、新しいコース・クラスについては、授業見学や体験授業を通して来校者が理解を深められるように努めます。</p> <p>また、入試セミナーでは、本校の入試制度や出題傾向を重点的に解説し、本校受験への意欲向上に繋がります。【1-1】</p> <p>■ホームページの積極活用</p> <p>本校のビジョンや教育方針などの基本情報はもとより、SNS (Facebook) も利用しながら、日常の学校生活、教育活動や部活動の状況をニュースとして随時更新することで本校をアピールします。また、情報を発信することで、相乗効果を高めます。【1-2】</p>	<p style="text-align: center;">生徒募集</p> <p>■オープンスクール・入試セミナーの充実</p> <p>オープンスクールでは、本校の概要、新設コース、新設クラスの特徴、部活動等の活動状況など本校の魅力を中学生・保護者に知らせました。特に、新しいコース・クラスについては、授業見学や体験授業を通して来校者が理解を深められたとの意見をいただきました。</p> <p>また、入試セミナーでは、本校の入学試験の出題傾向を重点的に解説し、安心して本校を受験できる環境作りを構築しました。</p> <p>【オープンスクール5回、入試セミナー2回実施】【1-1】</p> <p>■ホームページの積極活用■</p> <p>本校のホームページ、SNS (Facebook) を利用し、日常の学校生活、教育活動や部活動の状況をニュースとして随時更新することで本校をアピールしました。また、情報を発信することで、相乗効果が高まりました。【実施中】【1-2】</p>

	<p><b>■中学校訪問・中学校対象説明会</b>      県内および近県の中学校の校長・進路担当者に対し、説明会、ならびに中学校訪問を通し、本校の概要・入試制度を紹介し、中学生への周知を依頼します。      さらに、出身中学校の先生に生徒の姿を見ていただくことにより、本校への理解が深くなるよう、生徒による中学校訪問を実施します。【1-3】</p> <p><b>■地区別入試説明会</b>      県内、各地区に教員が出向き、地区別に入試説明会を実施します。直接受験生・保護者に本校をアピールし、より身近に感じてもらい、理解・関心を深めることを目的とし、岡山市内各地域、倉敷市、総社市、瀬戸内市などで実施します。また、県外での開催も検討します。      【1-5】</p> <p><b>■国際バカロレアコース（仮称）説明会</b>      県内外の中学校、塾に国際バカロレアコース（仮称）に関する情報提供を行うため、説明会を実施します。【1-4】</p> <p><b>■入試制度の検討と見直し</b>      試験科目を含め、入試制度の検討および見直しを行い、受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。【2-1】</p>	<p><b>■中学校訪問・中学校対象説明会</b>      県内および近県の中学校の校長・進路担当者に対し、説明会、ならびに中学校訪問を実施しました。特に、本校の入試制度を紹介し、中学生への周知を依頼しました。      さらに、本校への理解が深くなるよう、1年生による中学校訪問を5月に実施しました。現在までに、中学校訪問3回、生徒による中学校訪問1回を実施しました。【実施中】【1-3】</p> <p><b>■地区別入試説明会</b>      受験につながるよう、県内、各地区で入試説明会を実施しました。ただし、来場者の少ない会場もあり、今後その地区での説明会開催について検討することになりました。      【9回実施済】【1-5】</p> <p><b>■国際バカロレアコース（仮称）説明会 ■国際バカロレアコース説明会</b>      オープンスクールに加え、要望に応じて県内外の中学校、塾に出向き、国際バカロレアコースに関する情報提供を行いました。また、国内以外では、米国、台湾、中国において説明会を行いました。      【県外、国外の数か所で実施済】【1-4】</p> <p><b>■入試制度の検討と見直し</b>      試験科目を含め、入試制度の検討および見直しを行い、安心して受験できる入試制度を定着させました。【実施中】【2-1】</p>
--	--	--

## 主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
5月18日	PTA 総会
6月12日、13日	球技大会
7月14日	後援会総会（通信）
7月21日	1期卒業式（通信）
9月20日	体育祭
9月26日、27日	文化祭
9月28日	文化祭（通信）
12月1日	2期卒業式（通信）
1月11日	県外生入試
1月30日、31日	選抜1期入試
2月21日	選抜2期入試
3月1日	卒業式（中止）
3月15日	3期卒業式（通信）（中止）
3月19日	終業式（中止）

## 学生・教職員数

### ■在籍生徒数

(令和元年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	普 通 科	グローバルサイエンスコース	20	14	20	14
		・特別進学（医・獣・薬）クラス ・進学（文・理）クラス	50	31	50	31
		総合進学コース	150	146	150	146
		スポーツサイエンスコース	80	67	160	138
		インターナショナルコース	20	4	40	17
		中高一貫コース	80	21	240	96
		普通科 計	400	283	660	442
	教育学科			80	8	
普 通 科	グローバルサイエンスコース			180	53	
	普通科 計			180	53	
普 通 科	特別進学コース			20	23	
	進学理大コース			60	40	
	進学総合コース			60	49	
	生命動物コース			40	42	
	アニメ・デザインコース			60	48	
	健康・スポーツコース			60	68	
	普通科 計			300	270	
	機械科			80	44	
	全日制課程 計	0	0	1,300	817	
	通信制課程（広域）普通科			400	106	
	総合計	0	0	1,700	923	

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

進 学				就 職	その他	合 計
国公立大学	私立大学	短期大学	専修学校			
5	198	5	88	48	11	355

(単位：人)

### ■教職員数

(令和元年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	2	55	58	12

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	499,205	484,676
		経常費等補助金	277,920	267,772
		その他収入	167,897	73,771
		計	945,022	826,219
	支出	人件費	924,449	823,228
		教育研究経費	244,866	235,661
管理経費		120,932	127,955	
その他支出		0	202	
計	1,290,247	1,187,046		
教育活動収支差額			△ 345,225	△ 360,827
教 活 外	収入	受取利息等	2	1
	支出	借入金利息等	9,600	8,068
	教育活動収支差額		△ 9,598	△ 8,067
経常収支差額			△ 354,823	△ 368,894
特 別	収入	資産売却差額等	12,055	2,503
	支出	資産処分差額等	5,408	9,809
	特別収支差額		6,647	△ 7,306
基本金組入前収支差額			△ 348,176	△ 376,200
基本金組入額合計			△ 439,365	△ 234,278
当年度収支差額			△ 787,541	△ 610,478